

学校概要

創立 45 周年	学校長 西川 健二	副校長 野村 光	学期 2 学期制	児童・生徒数 521 人
学級数 一般級: 17 個別支援級: 2			主な関係校: 富岡中・富岡小・能見台小・能見台南小、小田中・小田小	

学校教育目標

心豊かな子どもの成長を目指して
 ○あたたかいかかわり合いを通して【知・徳】
 ○のびのびと思いや考えを表現し合い【知・公】
 ○すすんで行動できるようにします。【体・開】

学校の特徴

- 丘陵地にあるため、能見台北公園や西公園など緑が多く自然が豊かであり、実体験を伴った学習が展開できる。
- 中学校が隣接しているため、小中一貫ブロックの連携が充実している。
- 保護者、地域の方が学校の教育活動にとっても協力的であり、多くの方がPTA活動やボランティア活動に携わっている。
- 経験年数が浅い教員は多いが、協働で教育活動を進めるまとまりがある。
- 学習状況調査の結果は概ね良好である。自分の思いを表現するから思いを共有する学習へ発展させていきたい。
- 地域や保護者は、子どもが自分から積極的にあいさつができることを望んでいる。

学校経営中期取組目標

- 全職員がチーム力を生かしながら児童理解や児童指導に取り組み、子どもたちが安心して生活でき、学習の基礎能力を高める学校を作ります。
- あいさつやなかよし活動を通して、集団の中で一人ひとりが輝きながら成長できる学校を作ります。
- インクルーシブ教育システム構築のため子ども一人ひとりの教育的ニーズ等に応じた学校を作ります。
- 小中一貫ブロックや家庭・地域と連携し、キャリアを意識して形成できる教育活動を進めます。

小中一貫教育の取組

富岡中学校	ブロック	: (富岡中・富岡小・能見台小・能見台南小・本校)
9年間で育てる子ども像	○人とよりよくかかわろうとする力 ○コミュニケーション能力 ○「YOU」(優-相手の気持ちを考えた言動 遊-何でも楽しむようにする 友-教え合い励まし合って学習を進める 結-最後まで諦めずに取り組む 勇-自分の考えをもち表現する)	
自校の具体的取組	・キャリア教育に関わって、地域参画・社会参画の面がやや欠けていたという反省をふまえ、次の内容に取り組む。①生活、総合、社会科、理科、道徳等の学習を通して、まちの自然や社会を具体的に見つめ、関わろうとする姿勢を育てる。②地域の方々との積極的なかかわりを通して、自己有用感をもって活動に取り組めるようにする。③具体的な実践としてまちの清掃活動に取り組む。その活動の中でまちの方々とのより積極的なかかわりを形作っていく。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	身に付ける力とための言語活動の位置づけを明確にした授業づくりを行い、児童が主体的・協働的に問題解決する力を育てる。	○主体的・対話的で深い学びの実現を図る。5点を意識しより質の高い授業を実現する。①全ての子どもが互いに学び合う学習集団②討論、話し合いなどの言語活動③自ら問いをもち、その解決に向かって意欲的に取り組むことの出来る問題解決的学習④学んだことの価値に気づくことの出来る姿勢⑤教科等の枠を超えて学びを生かそうとする態度の育成
豊かな心	道徳をはじめすべての教育活動で自他を尊重し合う心を育てる。	○全ての教育活動で互いを尊重し、良さを意識することのできる集団を育成する。①討論、話し合い活動などにおいて互いの意見を尊重し、より質の高い学びを目指すことの出来る集団の育成②学んだことの価値に気づき、社会や自然を尊重する姿勢の育成③道徳的な価値を身に付け生活に生かす姿勢の育成④自らの在り方を振り返ることのできる機会の設定
健やかな体	一校一実践の取組である「西富タイム」の計画的な運用を図り、体を動かすことの好きな児童を育てる。	①西富タイム(外遊び推進)を各学級ごとに計画的に実施し、体力の向上を図ります。②全校スポーツ週間を通し、季節に応じた体力向上の取組を実施します。③朝から体を動かすことを通し、1日の生活リズムをつくり学習へのスイッチを入れる朝遊びを推奨します。
いじめへの対応	児童支援専任を中心とした子ども一人ひとりを大切にする児童指導を進め、いじめの防止、早期発見に努めるようにする。	①児童支援専任を中心に組織として子ども一人ひとりを大切にした児童指導を進めます。特に毎月職員会議内で定期的に子どもの情報の共有化を図ります。②アンケートを活用しながら日頃の児童の見取りを十分にすることでいじめ等の未然防止に努めます。③いじめ防止委員会、職員会議、打ち合わせに至るまで全職員で子どもの実態を話し合う機会の設定
キャリア教育	友達と協力し、互いのよさを認め合いながら、自分のよさを日常生活・社会で発揮する児童を育てる。	①児童が学年に応じて自分の役割に責任と自覚をもって取り組めるようになかよし活動を行います。②児童が社会に役立つ喜びを感じ、自ら社会に関わることができるよう地域清掃活動を行います。③児童がよりよい学校を目指して自ら活動計画を立て、実践できる児童会活動を行います。
特別支援教育	個別の支援計画・指導計画を生かした継続的な指導を実現させ、合理的配慮のある学習環境を実現する。	①個別の支援計画・指導計画に基づき、子ども一人ひとりの状況に応じた支援体制・学習環境を作り継続的な指導を進めるために合理的配慮に関する職員の理解を深めます。②個別支援学級と一般級児童及び近隣の個別支援学級と、ねらいを明確にした交流及び共同学習を進めます。
安全管理	計画的な防犯・防災学習を通して、発達段階に応じた危機管理能力の育成を図る。 全教職員で施設、給食、情報管理等	①発達段階に応じた危機管理教室や防災・防犯訓練、交通安全教室等の体験活動を通して児童の危機管理能力を高める。②想像力を働かせ、施設・設備の点検・管理を行う。③感染症対応、異物混入等のマニュアルを全教職員で確認し、速やかな対応ができるようにする。④情報漏洩を未然防止、管理を徹底する。⑤地域との連携を図り、学校外での問題にも
人材育成・組織運営	メンターチームをはじめ、ライフステージを意識した研修をすすめながら教師力・指導力の育成を図る	①メンターチームを7年以下の教職員を中心に組織する。全体の相談役に主幹教諭、様々な講師にはミドルリーダーや指導主事があたり2月に1回の活動を継続的に行う。②職員会議をペーパーレスで行い、事務の効率化を図る。③2週に1度教務会を行い、学校リーダーが全体を見通して学校運営に参画していく場を設定する。